

		町連	地区 社協	地区の特徴	これまでの主な取組	方向性	当面の地域づくりの取組		
5 地区の 地域 づくり	稲田町連	菅地区		<ul style="list-style-type: none"> ・全域が菅町会の範囲 ・管会館を中心に防災、防犯のまちづくりを推進 ・まとまりがあり、町会活動は活発 ・町会加入率は5割未満 ・歴史的な寺社仏閣やお祭り・行事がある ・梨園の跡地の宅地化などにより民間介護事業所（主に有料老人ホーム）が多い 	<p>○町会ヒアリング調査（H29年度） 菅町会は10の小区で構成。規模と組織力を活かして防災・防犯、イベント・広報等の活発な取組がされている。</p> <p>○キーパーソンヒアリング（H30年度～） 民協、町会役員、社協、集合住宅関係などから地域の情報収集。</p> <p>○菅町会大運動会でのオープンワークショップ（H30年度） 町会関係者と地域住民の意識の差、山側と平地側の違いを把握。</p> <p>○集合住宅への働きかけ(H30年度～) ふじのき台団地共助委員会に菅芝間住宅の「さわやか訪問活動」を紹介。「ふじのきゲームカフェ」（令和2年3月立ち上げ予定であったがコロナの影響で中止）</p> <p>○地域包括支援センター・菅の里の地域づくりの支援 高齢者施設・事業所との情報交換会への参加やカフェの立上げ支援など。サンビームヒルズで介護予防教室スタート(令和元年9月～毎月実施)</p>	<p>○町会への継続的なアプローチ 町会ヒアリングのフォロー、キーパーソンヒアリング等を通じて町会との関係をつくりながら地域の実態調査を継続していく。菅町会内で立ち上がった10年先を考えるプロジェクトチームとのヒアリングを通じて地域課題を共有し、連携した取組を検討していく。</p> <p>○集合住宅へのアプローチ 小地域への介入として、高齢化率が高い集合住宅での自助・互助の意識向上に向けた取組を進める。</p> <p>○地域包括支援センターと連携した地域活動の促進 地域と密接に関わる地域包括支援センターとつながり、連携して地域づくりを進める。</p>	<p>○町会の情報収集の継続 「10年先を考えるプロジェクトチーム」を通じて地域の実情や課題などの情報収集を継続し、必要に応じて地域課題の抽出等の支援や連携した取組を行う。</p> <p>○キーパーソンヒアリングの継続による地域の全体象の把握 地域のキーパーソン（町会役員、民生委員、子ども関係など）に話を聞き、地区の実情について情報を収集する。</p> <p>○集合住宅へのアプローチ 集合住宅の住民による互助活動実現のため、情報提供や活動したい人と既に活動している人をつなぐ等の支援を行う。コミュニティカフェ立ち上げの動きがあり、必要な情報提供や相談等の支援を継続する。</p> <p>○地域包括支援センターと連携した取組 担当者会議等を開催し、地域情報の交換やお互いの事業の取組等を一緒に考えるなど、連携して地域づくりを進めていく。</p>		
				中野島地区		<ul style="list-style-type: none"> ・中野島町会と小規模な自治会で構成 ・様々な団体が参加するイベントを地域で開催 ・一部地域で高齢化などの課題が顕著 ・中野島多世代つながり愛プロジェクト協議会でプロジェクト活動を実施 	<p>○「中野島多世代つながり愛プロジェクト」の推進</p> <p>・H28～30年度 東京都健康長寿医療センター研究所と協定を結んだ取組 多世代で支え合うまちづくりを目指した協議会の運営、あいさつ運動、まちプロ養成講座、中野島ファミリーカフェ、ポールdeウォーク講座など複合的な働きかけを実施。</p> <p>・R1年度 協定終了後の取組 今後の協議会の進め方について意見交換、地区カルテを活用したグループワーク実施、災害に向けて日頃からできることをテーマに意見交換等を実施。</p> <p>○中野島多世代つながり愛フォーラムの開催 協議会参加団体同士が互いの活動を知り、地区のつながりの活性化を目的に開催。</p>	<p>○中野島多世代つながり愛プロジェクトの活動継続 東京都健康長寿医療センター研究所との「中野島多世代つながり愛プロジェクト」を引き継いだ地域づくりを進めていく。現行活動の継続を基本としながら必要な整理を行い、協議会を中心に愛着を持って住み続けたいと思う中野島を目指した取組を検討する。</p> <p>○中野島多世代つながり愛フォーラムを通じたつながり合いの促進 協議会参加団体の活動を互いに知り、理解を深めるとともに、協議会参加団体以外の地区で活動する団体とも交流し、地区全体のつながりを活性化させるためにフォーラムを開催する。</p>	<p>○中野島多世代つながり愛プロジェクト協議会の運営 多世代がつながり支え合う地域づくりを目指し、協議会を中心に中野島における地域づくりの方向性を検討し、地区での共有を推進する。</p> <p>○中野島多世代つながり愛フォーラムの開催 協議会参加団体同士が互いの活動を知り、地区のつながりの活性化を目的に開催。</p> <p>○あいさつ運動、まちプロ活動の支援など現行の活動の継続 プロジェクトの理念の実現に向けて、あいさつ運動、中野島ファミリーカフェ、ポールdeウォーク等の活動を継続。</p> <p>○市営住宅の高齢化など課題が顕在化している地域へのアプローチ 個別支援を通じた課題の拾い上げと、見守り活動や身近な居場所づくりなど地域が主体となる活動の支援を進める。</p>
						登戸地区		<ul style="list-style-type: none"> ・10町会とマンション管理組合等で構成 ・小田急線、世田谷町田線を境にゆるやかに3つのエリアに分類できる ・町会ごとの取組は類似、登戸連合町会での運動会開催等の取組あり ・登戸区画整理事業の対象地域では活動が難しい ・町会によっては居場所づくりなど地域ニーズを具体化する力がある ・集合住宅が多く、人の出入りが多い 	<p>○町会ヒアリング調査（H29年度） 登戸連合町会を構成している10町会にヒアリングを実施。登戸地区の町会は道路（県道3号線世田谷町田線）と鉄道（小田急線）を境とした3つのエリアに分類できることが判明。町会では防災訓練やお祭り等の連携。</p> <p>○地域カフェの立上げ支援（H29年度～） グランドカフェ、登戸新川カフェ花みずき、Caféしもがわら</p> <p>○キーパーソンヒアリング（H30年度～） 民協、町会役員、商店街関係者にヒアリングを実施。同じ地域で活動している団体同士の活動を知り交流する機会があると良いとの意見があった。</p> <p>○のぼりとミーティング（H30年度～） 地域で行われている活動を知り、自身の活動のヒントにしてみらうため、地区で活動する団体を対象としたミーティングを開催。</p>
		稲田地区		<ul style="list-style-type: none"> ・宿河原、長尾、堰の大町会と小規模町会で構成 ・町会ごとの取組は類似しており、連携もあるが考え方は異なり、地区全体としてのまとまりが薄い ・各町会に拠点となる町内会館がある ・地域ごとに成り立ちが異なり、意識や地域づくりへの姿勢に違いがある ・マンション等への若年層の転入者と高齢者が混在した地域 	<p>○町会ヒアリング調査（H29～30年度） 各町会の活動や関係性などを整理。お祭や防災関係など特定分野で連携はあるが、抱える課題や住民の意識、担い手の層などに地域差があり、稲田地区全体としてのまとまりは薄い。</p> <p>○長尾町会、長尾台住宅自治会への働きかけ(H29年度～) 長尾台住宅自治会で「これからの長尾を語ろうみんなの集い」、認知症予防講座、認知症サポーター養成講座、運動講座等を長尾会館で開催。自治会内住民（279世帯）を対象にアンケート調査を実施し、自治会の総会でアンケート結果を返した。R1年度に「カフェながお」立ち上げ。</p> <p>○キーパーソンヒアリング(H30年度～) 地域で活動している団体関係者から地域情報を収集。</p>	<p>○3地域への働きかけ 次の3地域の特徴や実情に応じた地域づくりを進めていく。</p> <p>・堰地域 台風の水害被害があったため、防災を糸口とした地域づくりを検討していく。</p> <p>・宿河原地域 地域情報を収集・分析し、住民のニーズや意向を把握して地域の実情に沿った取組を検討していく。</p> <p>・長尾地域 高齢化率が高く交通不便な地域で住民主体の互助活動が活発。既存活動の促進・継続を支援していく。</p> <p>○子育て世代への支援 稲田地区は子育て世代の住民が多く、育児の悩みや子どもの相談が聞かれるため、子育て中の親子に向けた支援を進める。</p>	<p>○3地域の特徴に応じた地域づくり</p> <p>・堰地域 浸水被害のあった地域の町会をヒアリングし、必要に応じて連携して地域における自助・互助の取組の促進を支援する。</p> <p>・宿河原地域 取組を進める上での情報蓄積のため、キーパーソンヒアリングを継続し、情報収集・共有・提供等を行う。ヒアリングから出た課題解決に向けた取組の支援のため、相談や事例紹介、地域資源の情報提供等のサポートを行う。</p> <p>・長尾地域 これまでの連携で立ち上がった地域カフェ等の住民主体の活動を促進するため、情報提供、相談等の必要に応じた支援を継続する。</p> <p>○子育て中の親子を支援する取組 関係部署と連携して、子育てヘルパー等の支援者の実態等を調査し、当事者のニーズに応じた支援ができるような体制づくりを行う。</p>		
				生田町連		<ul style="list-style-type: none"> ・63の大小さまざまな町会やマンション管理組合等があり、団体の構成や活動の濃淡は様々 ・地域が広く、住民の居住環境も様々 ・町連や活動の活発な町会を通じて、情報の共有や活動の連携を広げられる土壌がある ・全体への働きかけが可能 ・生田親子運動会など地区全体での取組がある ・非常に活動が活発な町会は3割程度、その他の町会に対する働きかけが課題 ・地区内に3大学があり、地域資源になっている 	<p>○かりがね台モデル事業（H28年度） 地域課題を共有し課題解決に向けたプロセスを通じた地域づくりを実施。</p> <p>○生田ご近所パワーアップ会議（H29年度） かりがね台モデル事業と生田地区町連勉強会をもとに、地区全体で地域課題を考えることを目的に生田地区町連を対象に連続講座を開催。</p> <p>○生田ご近所パワーアップ集会（H30年度～） 地域を細分化して民協区域単位で3大学と連携し、身近な地域の活動や課題について考える住民向けの集会を開催。</p> <p>平成30年度：生田第2地区民協区域 日本女子大学生涯学習センターで開催 令和元年度：生田東地区民協区域 専修大学サテライトキャンパスで開催</p> <p>○町内会・自治会ヒアリング調査（H30年度～） 生田地区の各町会の活動や課題、町会間の連携や関係性などを聞き取り、町会を中心とした視点での地域の実態を調査。（※進行中25町会／63町会）</p> <p>○地区の活動支援「韋駄天カフェ」（令和元年スタート）</p>	<p>○生田地区町会連合会と連携した地区全体の取組 単一町連で7万規模の人口を組織、活発な町会活動という土壌を活かし、地区全体として地域づくりを進める。定期的に町連会議の場で地区の取組を報告する。</p> <p>○細分化した枠組みでの取組 「活発な活動のさらなる底上げ」と「活動が乏しく参加がない層の対策」を目指し、小地域での継続的な基礎調査の実施、より生活圏に近い課題につなげるため地区を細分化した取組、地区活動の後押しを進めて行く。</p> <p>○近隣町会同士の連携促進 近隣同士が連携した取組があり、ある程度まとまった地域で生活支援の仕組みを構築する可能性を探る。</p>	<p>○町内会・自治会ヒアリング 地区の実態把握のため、平成30年度～令和2年度の3か年計画でヒアリングを予定。結果を町内会・自治会と共有する。</p> <p>○生田ご近所パワーアップ集会の開催 地域で活躍する活動の紹介などの住民向けの集会を、民協区域ごとに、立地する大学と連携して開催。（3民協区のため1年度1区域の3か年計画で実施）</p> <p>○取組の共有 生田地区町会連合会の会議の場などでの報告や、住民向けに作成するレポートを活用し、地区内の取組について共有を進めていく。</p> <p>○町内会・自治会未加入者などの対応 地域内での孤立を防ぐため、近隣との関係性が乏しく地域への主体的な参加や困りごとを発信できない層の実態把握とアウトリーチを進めていく。</p>